医甲様式２

論文審査の要旨（甲）

申請者領域・分野　氏名	循環病態科学領域循環病態内科学教育研究分野 氏　名　舘山　俊太
指導教授氏名	奥村謙
論文審査担当者	主　査　廣田和美 副　査　福田幾夫　　副　査　加藤博之

（論文題目）　Prognostic Impact of Atrial Fibrillation in Patients with Acute Myocardial Infarction (急性心筋梗塞患者における心房細動合併の予後への影響)

（論文審査の要旨）900 字程度

本研究は、急性心筋梗塞(AMI)患者において心房細動(AF)が AMI 予後に及ぼす影響を検討したものである。研究方法は、発症から 48 時間以内に当院へ搬送され、直接的経皮的冠動脈形成術が施行された AMI 患者連続 694 例を対象とし、それらの患者を AF の有無につき、AF 有りの Any-AF 群(n=89)と AF 無しの Non-AF 群(n=605)に分け、各群で院内イベントおよび長期の全原因死亡について検討した。その結果、Any-AF 群では Non-AF 群に比べ、有意に高齢(72±9 vs 65±13 歳, $p<0.01$)、高心拍数(84±28 vs 78±19/分, $p=0.003$)、低左室駆出率(41.9±12.3 vs 46.9±9.8%, $p<0.01$)、低腎機能(eGFR: 52.8±24.8 vs 60.3±22.2 ml/min/1.73m^2, $p<0.01$)であり、最大 CPK が高値(4886±4541 vs 2995±26891U/L, $p<0.01$)、最終造影における TIMI グレード 3 が低頻度(71.9 vs. 82.0%, $p<0.05$)であった。更に Any-AF 群では、Non-AF 群に比べ、入院中の心不全(34.8 vs 17.4%, $p<0.01$)、心原性ショック(12.4 vs. 4.6%, $p<0.01$)、心室頻拍/心室細動(10.1 vs 3.6%, $p<0.05$)が増加し、院内死亡率も有意に高かった(11.2 vs 4.0%, $p<0.01$)。しかし、ロジスティツク回帰分析を用いて年齢>65 歳、左室駆出率<40%、最終造影での TIMI グレード 3 で補正すると、AF と院内死亡には有意な関連はなかった。長期予後では 3.0±1.7 年の平均観察期間中に 114 例(16.4%)が死亡し、生存時間分析において、Any-AF 群では Non-AF 群に比べ有意に死亡率が高かった(30.3 vs 22.1%, $p<0.01$)が、Cox 回帰分析を用いて、年齢>65 歳、男性、左室駆出率<40%、eGFR<60ml/min/1.73m^2、前壁梗塞、最大 CPK 値>30001U/L、入院時心拍数>100/分、最終造影 TIMI グレード 3 で補正したところ、AF は長期死亡率における独立した危険因子とはならなかった。結論として、AF 合併は、入院中の心不全、心原性ショック、心室頻拍/心室細動の増加、死亡率の増加と関係したが、多変量解析の結果、AF は死亡率増加の独立した危険因子とはならなかった。以上より本研究は、AMI 患者の予後を探る上で、今後の診療および臨床研究に大きく寄与する内容であり、学位授与に値する。

公表雑誌等名	Journal of Arrhythmia に掲載予定